

『国際マリンバイオテクノロジー会議』静岡県で開催 MaOIプロジェクトを世界に発信

令和元年9月10日（火）から13日（金）まで、静岡県静岡市清水区の静岡市清水文化会館マリナートをメイン会場に、国際マリンバイオテクノロジー会議が開催されました。

この会議は、マリンバイオテクノロジー学会（会長 竹山春子早稲田大学理工学術院教授）が主催する国際会議で、国内外から学会に所属する研究者や学生など約500人が集まり、海洋資源や微生物に関する最新研究や海洋プラスチックごみ問題、サクラエビの生態調査など多岐にわたる分野について、テーマ別のセッションやポスター発表が行われました。

当機構では静岡の地で開催されるこの国際会議を絶好の機会と捉え、当機構の研究所長である五條堀教授、並びに統括プロデューサーである橋本教授が、セッションの中で、海洋資源の産業応用を支援するMaOIプロジェクトや当機構の取組について紹介いたしました。

また、当機構の概要を紹介する広報ブースを出展し、当機構の活動理念を「海の恵みを Blue Techとイノベーションで 社会へ 未来へ」と題する松永理事長からのメッセージ、MaOI宣言※1として取りまとめ、日本語版・英語版を合わせて来場者に配付するなど、MaOIプロジェクトを、世界に向けて発信いたしました。

来場者からは、MaOIプロジェクトについての関心が寄せられ、今後の活動の進展に期待が寄せられました。

※1 MaOI宣言

海の恵みを Blue Techとイノベーションで 社会へ 未来へ

海は生命の母である。有史時代から、様々な恩恵が海から地球に、そして人類に与えられてきた。深く豊かな駿河湾と、長い海岸線を有する恵まれた静岡という地に暮らす私たちは、海と共生しつつ、豊饒な海が育む様々な恵みを享受してきた。健康な海が健康な生命を、そして豊かな文化を育んできたのである。

今日、デジタル・IT、AI、ネットワーク、センシング・モニタリングやバイオテクノロジーなど様々な科学技術が飛躍的に発展し、海が擁する未知なる恵みの存在にも気づくことができるようになった。海は私たちに、まだまだ多くの新たな恵みをもたらしてくれる可能性に満ちている。

一方、近年、地球温暖化問題や、海洋汚染、特に海洋プラスチックごみ問題にみられるように、海は様相を変えつつある。これまでと同じような恵みを享受することが難しくなるのではないか、そんな懸念が高まっている。海で何が起きているのか、その原因の解明は急務であるが、そもそも海

については、まだまだ知らないことが数多い。

最近では、海から得られる持続可能な恵みによる経済効果を Blue Economy と呼び、米欧のみならず太平洋に浮かぶ国々などが注目している。そして Blue Economy を実現する多種多様な技術を Blue Techⁱ と総称し、海洋産業とも言い得る新たな産業の創生に取り組み始めているⁱⁱ。

これまで海の恵みを存分に受けてきた私たちは、海の恵みを、子々孫々にも引き継いでいかねばならない。海の恵みを持続可能な形で得ていくために、そしてそれらの恵みにより将来に亘って人々の健康な生活を維持していくために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用していく取組が重要である。

豊かな海の恵みに育まれた静岡の地において、私たちは表明する。母なる海についてより多く学び、Blue Tech により新たな恵みを見出して、多様な産業分野での新たな価値の創出や課題の解決に結びつける取組を行うことを。これにより、より豊かな健康長寿社会の実現を目指すとともに、海と共にある暮らしを未来につないでいく。

思いを同じくする多くの人々の賛同と連携に期待を込めて。

マリンオープンイノベーション機構 理事長 松永 是

ⁱ Blue Tech とは、海洋鉱物資源、生物資源の採取・有効利用または再生にとどまらず、海洋地形データ、海洋気候データの収集・活用、そのためのロボティクス・モニタリング技術、環境浄化技術など非常に広範な概念であり、様々かつ広範な産業創生の可能性を有する。

ⁱⁱ San Diego など先進的に取り組む地域では Blue Tech 地域産業クラスターを創生しつつある。

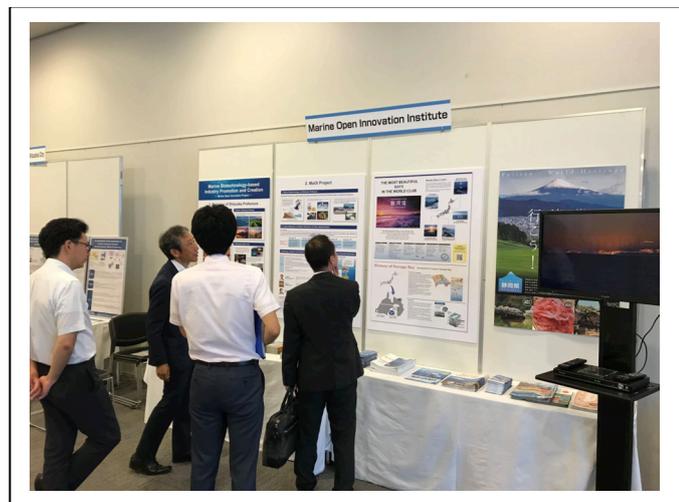
添付写真



開会式の様子



五條堀研究所長からMa O Iプロジェクトを紹介



広報ブースでMa O IプロジェクトをPR